

1 グランドデザイン策定の目的(P1)

麻機遊水地は、巴川流域総合治水対策事業の一環として整備している遊水地(貯水施設)で、巴川中、下流域の浸水被害を軽減している。一方、これまでの治水事業で希少植物などが甦り、多くの動植物が集う多様性のある湿地となっている。また、平成24年の新東名高速道路開通により、県内外から誘客するには好立地の場所となっている。そこで、麻機遊水地が地域の活性化に資するよう、遊水地の全体を見据えた上で、将来に向けた目指す方向性を示す必要があると考え、地区全体の土地利用や取組について、基本となる考え方や方針を「グランドデザイン」としてまとめる。

2. 麻機遊水地及び周辺地域の概要

(1) 麻機遊水地の沿革 (P2)

・昭和49年の七夕豪雨で巴川流域において甚大な水害が発生したことを契機に、巴川流域総合治水対策事業の一環として、地域住民の協力によって、遊水地整備が進められている。

(2) 麻機遊水地及び周辺地域の特性 (P3)

- ①遊水地の工事による埋土種子の発芽で絶滅危惧種が多数確認されるなど、多種多様な動植物が生息する豊かな自然環境から、平時は水辺の親水環境として、市民に親しまれている。
- ②新東名高速道路が開通し、新静岡ICが至近にあり、広域からの自動車によるアクセスが容易となった。

(3) 麻機遊水地の現状 (P4)

・遊水地内の第1工区、第3工区では、緑地としての整備が計画されており、第1工区が平成32年度に完成予定である。

(4) 関連法令及び計画等 (P6)

河川法、自然再生推進法、緑の基本計画 等関連法令等と調整を行う。

(5) 自然再生の取組 (P7)

- ・自然再生協議会や麻機湿原を保全する会等による自然環境に関する活動が行われている。
- ・柴あげ漁など地域に根差した伝統的な活動が行われている。

(6) 麻機遊水地地区の課題 (P8)

- ①時間経過による治水機能の低下
- ②動植物の生息環境の劣化
- ③持続可能な利活用の仕組みづくり



3. 策定の基本方針

基本方針(P9)

治水機能を確保しつつ、地域の自然環境や立地特性を活かした自立発展型の地域活性化を目指す。

目標(P9)

- ①麻機遊水地を活性化させることにより、遊水地の維持管理及び麻機地域の活力を生み出す。
- ②遊水地の魅力を高めることにより、広域からの観光・交流を呼び込み、交流人口増加を図る。

地域活性化の方向性(P11~12)

(1) 治水機能の確保

巴川総合治水対策事業における遊水地としての治水機能の確保を第一とする。

(2) 自立発展型地域活性化の推進

- **自然環境の再生**
多様に富む湿地環境の再生と、人と自然が共生できる環境づくりを推進する。
- **環境を活用した健康づくりの支援**
スポーツの場を提供し、市民の健康づくりを支援する。
- **交通利便性を活かした交流の拠点**
交通利便性を活かし、広域からの人々が訪れる場を創出する。
- **自然と歴史を体感する憩いの場**
豊かな自然環境と歴史ある人の営みを体感する憩いの場を目指す。
- **福祉・医療機関、企業と連携した自然との共生**
周辺施設間の連携を強化し、「自然と福祉・医療、産業との共生」を進める。
- **豊かな自然を活かした体験の場**
多様な人々が自然環境を学び、次世代に引き継ぐための地域協働の体験の場を整備する。



持続可能な維持管理と活用(P18)

麻機遊水地地区における共有すべき社会的価値を、「自然」「教育」「資源循環」として捉え、
連携・活用 → 公共性の高い地域ビジネスの創出・雇用の創出
→ 自立発展型の地域経済のサイクルを作り出す。
(自然や環境、賑わいを守るため、自らで人材、財源を生みだしていく)

4. 今後の取組

麻機地区の価値を高めるため、先進事例を参考に、麻機遊水地における取組や機能の可能性を広く検討する。

(1) 人と自然の共生による地域振興(P19)

①未来遺産運動・ラムサール条約湿地の可能性(P19)

日本ユネスコ連盟が行う未来遺産運動や、ラムサール条約湿地等、遊水地の付加価値を高める登録が自然環境の保護や地域振興に資することができるのか、その可能性の検討を進める。

②地域の知の拠点との有機的な連携(P20)

学識経験者や地域の住民と積極的な意見交換や情報提供を行い、地域の知の拠点等の結びつきを強め、連携を進める。

③資源循環の仕組み(P20)

バイオマスの導入等、潜在する地域振興資源を遊水地の保全や地域振興に活用するなど、資源循環保全の仕組みづくりの検討を進める。

④地域参画の仕組み(P21)

地域での人材育成、広報活動等に力を入れるとともに、多様な活動団体と連携し、多くの市民に参画の機会が得られる仕組みづくりを進める。

(2) 医療・健康・福祉のまちづくり(P22)

麻機遊水地は静岡てんかん・神経医療センターや県立こども病院、支援学校等、官民の医療・介護施設が多く隣接している。地域と障がい者等との連携・共生の場として「医療・健康・福祉のまちづくり」に協力していく。

(3) 産業振興の可能性(P22)

周辺地域に立地する流通施設や道路の結節点、健康施設や清掃工場・環境関連施設など産業・健康等、近隣施設との連携を強化し、国の規制緩和策を活かし、地域の活性化に繋がる経済活動の支援を進める。



こちらのQRコードを読み取ると、「麻機遊水地地区グランドデザイン」の全文がご覧いただけます。

麻機遊水地工区別イメージ図 (P13~17)

第1工区整備イメージ

緑地

体験



体験農園



マルシェ



歴史文化の展示



ハス池

■第1工区 (面積 21.7ha 貯留量 20万 m³)

《自然とふれあう体験型の都市緑地》

麻機の自然・歴史・文化の伝承を体験する都市緑地の整備を行う。
内容：公園、農業体験、歴史文化・湿地資源の展示、農産物直売イベント

■第2工区 (面積 93ha 貯留量 68万 m³)

《交流が生まれる水辺のレクリエーションゾーン》

自然や歴史を学びながら散歩できる散策路や、県内外からのアクセスの良さを活かし、憩いと交流のゾーンとしての活用を行う。
内容：散策路、水辺の癒し空間、遺跡の案内

■第3工区 (面積 55ha 貯留量 67万 m³)

《連携するネイチャーフィールド》

麻機の湿地環境のシンボルエリアとして自然を活用し、医療・健康・福祉や産業と連携し、自然との共生・資源循環型環境保全の実践を進める。
内容：自然観察・多目的広場・伝統的漁法、経済振興



自立発展型の地域活性化

■第4工区 (面積 32ha 貯留量 53万 m³)

《水と親しみスポーツを楽しめる健康エリア》

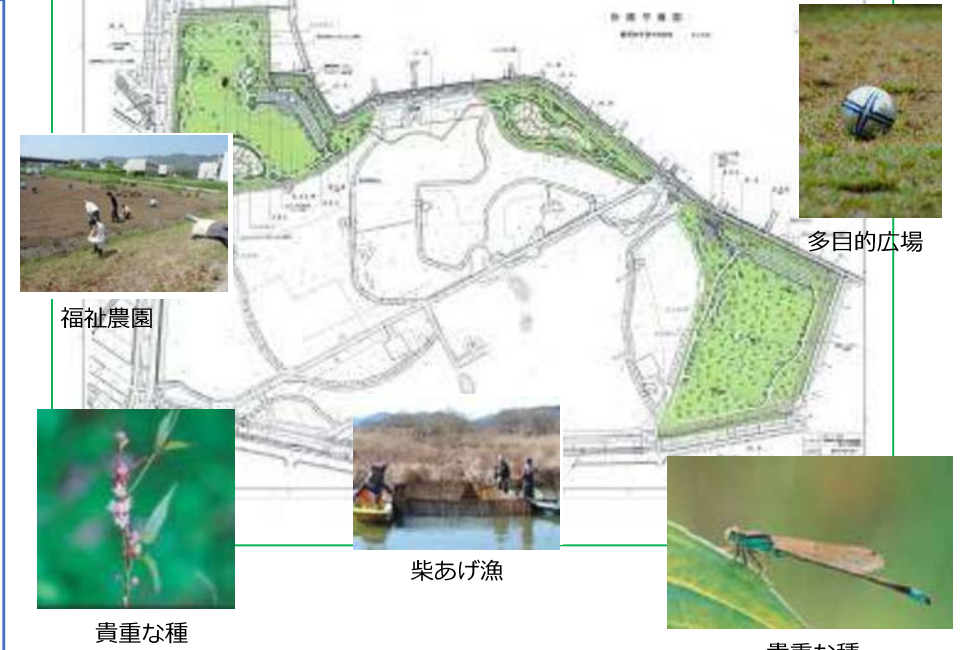
水辺の自然環境の保全と創出による憩いの場と、スポーツも楽しめる場として、心と体の健康増進エリアとして利用する。
内容：自然観察デッキ・グラウンド・散策路・池の森 等

■第5工区 (面積 5ha 貯留量 5万 m³) ヘリポート整備済
《市民の要求に応える交通施設》 内容：ヘリポート、貯留池

自然

共生

第3工区整備イメージ



福祉農園



多目的広場



貴重な種



柴あげ漁



貴重な種

交流

第5工区 (静岡ヘリポート)



第4工区整備イメージ

自然

健康



自然環境の保全



親水機能



スポーツエリア

交流

憩い

第2工区整備イメージ



水辺のレクリエーション

遺跡に学ぶ地域の歴史